様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２６ 年　 ６ 月 １０ 日現在

機関番号：１７７０１
研究種目：基盤研究(C)
研究期間：2010～2013
課題番号：２２５２０６８０

研究課題名（和文）幕末・明治期の先駆的英国人日本学者による国学の受容と評価

研究課題名（英文）Acceptance and appreciatin of Kokugaku by British pioneer Japanologists in the last days of the Tokugawa Shogunate an Meiji era

研究代表者
虎尾　達哉（TORAO, TATSUYA）

鹿児島大学・法文学部・教授

研究者番号：３０１６４０６５

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　3,100,000円、（間接経費）　930,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、ケンブリッジ大学図書館に所蔵されているW.G.アストン旧蔵の和書のうち、国学著作（霊能真柱、古史徴、たまたすき、入学問答、すずのたまぐし、俗神道大意、くずばな、鬼神新論、古今妖魅考、末賀能比連、祝詞考、祝詞正訓、大祓詞後釈、出雲国造神寿後釈、玉くしけ別本）に記されたアストンおよびサトウの鉛筆書き入れを資料として収集し、分析を加えた。その結果、アストンもサトウも本居宣長、賀茂真淵、平田篤胤らの国学著作の内容を精力的に理解・研究したこと、とりわけ篤胤の国学研究を高く評価していたことが明らかになった。

研究成果の概要（英文）：In this study I researched at Cambridge University Library notes written by Aston and Satow on the Kokugaku(or the study of ancient Japanese thought and culture) books which belong to Aston Collection; Reinomahashira, Koshityo, Tamatasuki, Nyugakumondo, Suzunotamagushi, Zokushintotaii, Kuzubana, Kishinshinron, Kokinyomiko, Maganohire, Noritoko, Noritoseikun, Oharaekotobakoshaku, Izumonokuninomiyatukokanyogotokoshaku, Tamakushigebeppon.
As the result, I found the fact tha they energetically studied the books by Motoori Norinaga, Kamono mabuchiand Hirata Atsutane. Especially they highly appreciated Atsutane.

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：史学・日本史

キーワード：サトウ　アストン　チェンバレン　国学　日本学

１．研究開始当初の背景

E.M.サトウ、W.G.アストン、B.H.チェンバレンらは、幕末・明治期に外交官や外国人教師として英国より来日・滞在し、広く日本の事物・文物に関心をもって多くの著作を表した先駆的日本学者である。従来も、これらの人々を個別に取り上げた伝記的著作はなされていた。サトウについては萩原延壽の『遠い崖―アーネスト・サトウ日記抄』（朝日新聞社）やイアン・ラックストン『アーネスト・サトウの生涯』（雄松堂出版）など、アストンについては楠家重敏『W.G.アストン』（雄松堂出版）、チェンバレンについては楠家『ネズミはまだ生きている』（雄松堂出版）があった。

しかし、これらの伝記的著作はサトウらが宣長や篤胤やその門人らの著作を多数購入し、巧みな日本語能力を駆使して精読した上で、各々の著作に引用・言及していることについては、ほとんど関心を払っていない。そもそも、彼らが日本学者であるならば、先ずはその日本学者としての著作こそが学問的に検討されねばならない。しかし、そのような検討さえ、いまだ本格的になされていないのが現状であった。

それまで、研究代表者は幕末・明治期における英国人日本学者らの学問的ネットワークについて研究を進めてきた。その成果として、サトウ、アストン、チェンバレンさらにはF.V.ディキンズらが横浜の日本アジア協会を拠点としつつ、活発に交流して学問的ネットワークを保ったこと、その中心となったのはサトウであったこと、さらにその学問的ネットワークの基盤となったのはサトウが日本で蒐集した推定２万冊にも及ぶ和書であったことなどを明らかにした。その過程で、応募者はアストンの『英訳日本紀』脚注の翻訳にも着手して現在も逐次公表中であるが、アストンがしばしば宣長・篤胤ら国学者の所説を冷静に批判を加えつつも、学者として深い敬意をもって引用していることに気づいた。チェンバレンの『英訳古事記』も同様である。さらに、やはり上記の研究過程で、ケンブリッジ大学図書館所蔵のアストン旧蔵和書を実地に調査したが、国学者の著作を含む多くの和書にアストンあるいはサトウによる鉛筆書きの書き込みが残されていることを実見した。これらの事実から、応募者は、幕末・明治期の英国人日本学者らは攘夷運動によってしばしば生命の危険にさらされた体験をもちながらも、その攘夷運動の思想的イデオローグともいえる篤胤ら国学者の著作について、学問的には高く評価していたのではないかとの推測に達した。そして、その推測を検証することによって、国際的学知の見地から国学に対する評価を見直すことができるのではないかと考え、本研究を計画するに至った。

２．研究の目的

本研究は、幕末・明治期におけるサトウ・アストン・チェンバレンら先駆的英国人日本学者たちが本居宣長・平田篤胤といった国学者の著作をどのように読み取り、それらを古事記・日本書紀・祝詞などの日本古典の研究にどのように活用したかを詳細に検討することによって、現代日本ではとかくナショナリズムやショーヴィズムと結びつけて捉えられやすい国学が 19 世紀から 20 世紀にかけての先駆的英国人日本学者からどのような学問的評価を受けていたかを明らかにすることを目的とする。

３．研究の方法

幕末・明治期英国人日本学者、とくにアストンとサトウが国学著作について具体的にどのように研究していったか、国内外に散在する彼らの旧蔵書中にいかなる国学著作が存在するか、彼らはその日本古典研究においてそれらをどのように活用したか、以上を調査することによって、わが国の国学が19世紀から20世紀にかけての先駆的英国人日本学者からどのような学問的評価を受けていたかを明らかにする。

具体的には次の二つの方法を中心に研究を進めた。

①英国ロンドン市の国立公文書館において、Satow Papersのうち、サトウの日記（PRO30/33/15/1-17）をデジタル・カメラによって撮影し、画像をＵＳＢメモリに保存する。

②同国ケンブリッジ市のケンブリッジ大学図書館において、「アストン和書目録」登載の国学著作と当館所蔵アストン・コレクション中の国学著作との照合・書き込み調査を行い、調査結果をＵＳＢメモリに保存する。

４．研究成果

本研究では、主に連合王国国立公文書館とケンブリッジ大学図書館で調査を行った。ケンブリッジ大学図書館の日本史部門に所蔵されているW.G.アストン旧蔵の和書のうち、国学著作（霊能真柱、古史徴、たまたすき、入学問答、すずのたまぐし、俗神道大意、くずばな、鬼神新論、古今妖魅考、末賀能比連、祝詞考、祝詞正訓、大祓詞後釈、出雲国造神寿後釈、玉くしけ別本）にアストンおよびサトウによる多数の鉛筆書き入れの存することを確認し、これらをデジタル・カメラに撮影して、資料として収集し、分析を加えた。その結果、アストンもサトウも本居宣長、賀茂真淵、平田篤胤らの国学著作の内容を精力的に理解・研究したこと、とりわけ篤胤の国学研究を高く評価していたことが明らかになった。また、「たまたすき」については幸いにもアストンの蔵書とサトウの蔵書が同版本として伝存しており、各々書き入れが認められたが、日本学者として著作活動に専念したアストンに対して、外交官としてのキャリアを歩んだサトウを比較してみると、書き入れの量はむしろサトウの方が多く、両者がともに熱心に平田の著作を精読していた様子が窺われた。

さらに、ケンブリッジでの副次的な成果ではあるが、アストン旧蔵和書を調査する過程で、３枚の同型の紙片を発見した。これらにはアストン旧蔵和書の英字書名と通し番番号やサトウからの借用書であることを示す「S」字など、「アストン和書目録」の記載事項と共通する記載が見られ、また英字書名の部分が日焼けしていたことなどから、これらはアストン旧宅に和書が置かれていたときに和書に挿んで書名が判別できるようラベルとして使用されたものと推測された。アストン旧宅における膨大な和書の管理形態が一端ではあるが明らかになった。

国立公文書館では、同館所蔵のSatow Papers を調査して、サトウの日記を資料として収集した。その過程で、サトウが日本の歴史・文化を勉強するために作成した大部のノート類も実見し、サトウが多方面にわたって、日本に関心を抱き、基礎的な勉強も怠らなかったことが判明した。

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

[雑誌論文]（計４件）

①<u>虎尾達哉</u>「アストン『英訳日本紀』脚注抄訳稿」(6)『鹿大史学』61号 pp.41-53

2014年　　査読無

②虎尾達哉「アストン『英訳日本紀』脚注抄訳稿」(5)『鹿大史学』60号 pp.29-40 2013年　　査読無

③虎尾達哉「アストン『英訳日本紀』脚注抄訳稿」(4)『鹿大史学』58号 pp.67-80 2011年　　査読無

④虎尾達哉「ケンブリッジ大学図書館蔵「アストン和書目録」について」(11) 鹿児島大学法文学部紀要『人文学科論集』71号 pp.59-77　2011年　　査読有

[学界発表]（計０件）

[図書]（計１点）

①虎尾達哉「アストンの「和書目録」と挿絵評価」
下原美保編『近世やまと絵再考』（共同執筆　ブリュッケ　366　頁）pp.139-152 2013年

[産業財産権]
○出願状況（計０件）

○取得状況（計０件）

[その他]
ホームページ等　　なし

６．研究組織
(1)研究代表者
　虎尾達哉（TORAO TATSUYA）
　鹿児島大学・法文学部・教授
　研究者番号：30164065

(2)研究分担者　　なし

(3)連携研究者　　なし